

！チャレンジ！子ども防災モニター

日頃から地域を歩いて、避難場所や危険防止の手だてを取っている場所を知ることは大切です。それをもとに防災マップを作ったり、家族や地域の人たちに、気付いた情報を伝えたりすることは、災害時の大きな備えとなります。

1 防災まち探検をしよう～防災マップづくり～

自分たちが生活している地域について、災害を減らす（減災）という視点でまち探検をしてみましょう。

そして、探検で気付いたことを地域のマップにまとめてみましょう。

【防災マップ作成までの活動例】

- ① 自然災害について知る。
- ② 災害が発生したときに必要なことを知る。（避難所の位置・複数の避難ルート・防火設備など）
- ③ 活動①②から、まち探検のチェックポイントを整理する。
- ④ まち探検に出かける。
 - ・カメラでポイントとなる場所や物をさつえいする。
 - ・自宅から避難所までのきょりや時間を確かめる。
- ⑤ 歩いてチェックしたことを地図に書き込んで、防災マップを完成させる。

防災マップは、いろいろな人（家族・地域の人）が作成に関わることで、より活用されるものになっていきます。

学校周辺だけでなく、放課後や休みの日に活動する場所からの避難経路を地図上に表して、自分の防災マップ（マイマップ）とすることも考えられます。



まち探検の様子



防災マップ

2 地域に役立つ子ども防災モニター

自分たちが防災マップにまとめた情報を、家庭や地域に発信しましょう。

また、同じ地域での防災まち探検を何度か繰り返して、前後の変化を定期点検することも有効な活動です。この活動を「子ども防災モニター」と呼んでいます。



地域の方へインタビュー

【子ども防災モニターの活動のポイント】

モニターの目的は、安全な地域づくりに協力することです。例えば、自動販売機に転倒防止が付いているとか、塀がくずれないように補強されているなど、「安全マーク」を付ける見方で地域に呼びかけていくことが大切です。

子ども防災モニターの活躍で、点検を重ねるごとに防災マップに安全マークが増えていくことが期待されています。



防災から、まちを知る！人を知る！

～学びのコミュニティ（学コミ）ながまちの取り組み～

太白区中央市民センター主査（当時）

駒沢 健二さんの話

長町中学校区の4校は、東日本大震災が起こる前から防災をテーマに防災マップづくりなどの活動に取り組んできました。また、学校の体育館にとまる「子ども防災キャンプ」を実施し、親子や地域の人と一しょに、様々な体験型の防災学習を行ってきました。

「学コミ」のように、学校と地域が繋がった活動を体験することで、自分たちの住む場所を改めて見直したり、地域の方とコミュニケーションが取れるようになっていきます。それは、地域にとって大きな力となります。

災害のときだけではなく、安心・安全なまちのために、地域を意識した学習に取り組めば、みなさんはきっと近い将来、地域を支える存在になることでしょう。

※学びのコミュニティ（学コミ）は、仙台市の学校・地域・市民センターが協力して、子どもたちのすこやかな育ちを支援している活動です。